



TITLE:

経済資料協議会の思い出

AUTHOR(S):

荒木, 康裕

CITATION:

荒木, 康裕. 経済資料協議会の思い出. 経済資料研究 2008, 38: 102-103

ISSUE DATE:

2008-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85114>

RIGHT:

(思い出)

経済資料協議会の思い出

荒 木 康 裕

(中央大学図書館)

私が経済資料協議会にはじめてかかわったのは、1981年の理事会であったと思う。1980年に経済研究所に異動になり、当時上司としておられた程島さんから、京都で開催の理事会に出席するように指示された。理事会当日、当時の前田昇三理事長から、出版担当理事として報告をお願いする、と言われ面食らったのを覚えている。というのも、出席にあたって、上司からは、とりあえず座っていればいいと言われていたからである。前田さんは優しい方で、会議の前にそっと、報告内容を教えてくださっていたから、何とか報告したのを覚えている。

以来もう27年が経っている。その間、若干の期間を除いて、図書館に異動になった後も経済資料協議会の担当として関係している。

1992年から4年間中央大学経済研究所が事務局をお引き受けした。会長は杉山忠平先生、理事長は細川元雄さんであった。細川さんの京都弁がなつかしい。事務局の仕事はお金に関わることが多かったが、当時はまだ会員が60機関以上あった時期で、それなりに活動が盛んな時期でもあった。1994年に福島大学で総会が行われた時には、地元の新聞社が取材に訪れ、地方版に経済資料協議会総会開催についての記事が出たこともあった。また、1993年から94年にかけて、ビデオ「経済文献の達人」全3巻の制作に携わったのもなつかしい思い出である。

27年の間には、「経済学文献季報」の休刊を決めた部会総会で議長をやらされたり、昨年の解散を決定した総会でも議長をやらされたりと、あまり歓迎されない役回りをさせられている。

まだ図書館に在職している身として、資料にかかわる職場が専門知識から業務処理を重視する方向に流れつつあるのは、なんとしても寂しい思いを禁じ得ない。

経済資料協議会を通じて、この 27 年間に私が学んだのは、飽くなき向上心（経済資料協議会の会員には人間離れした方もおられることはどなたもご存じだと思います）と人間関係の大切さであった。これは私の一生の財産と思っている。

経資協の皆様、お世話になりました。どうぞお元気で!!

朝 倉 美恵子

(北海道大学大学院経済学研究科)

私が、『経済学文献季報』の採録の手ほどきを職場の先輩の杉野和子さん(2001 年 3 月退職)から受けたのは 1986 年頃で(北大が経済資料協議会〔以下、経資協〕に加盟したのは 1966 年)、何と私も 20 年以上も経資協に関わってきたことに、今更ながら驚いています。

経資協の『KEIS- II 書誌記述マニュアル』での採録作業では、杉野さんにいつも懇切丁寧な指導を受けました。総会や研究会には、3 年に 1 回の割りで、彼女と交代で出席させて頂きましたが、当時は、東西 2 つの部会で夫々に活発な活動を行っていた時で、かつての経資協の錚々たる方々、事務局の方々、その他、加盟機関の会員の方々の熱心な討論に、唯々呆気にとられて聞いて帰っただけでした。特に、日本大学の大日方祥子さんには、大変お世話になりました。今もその頃の様子が思い出されます。

それでも、私が少しずつ、理事や役員の方々、他大学の仕事熱心な方々と知り合いになって 10 年程が経った頃、会員の方からのご要望もあって、私が北大での総会開催を杉野さんに相談したところ、彼女